



## ジャングルを探検すると7割は身体をこわす

最近のテレビ番組でジャングルに行く人といえば、「世界の果てまでイッテQ!」のイモトアヤコさんでしょうか。アマゾンには何度も行っている、と先日聞いていました。

さて、私たちのような一般人がアマゾンのジャングルに探検に行くと、果たして体調はどうなるでしょうか。

*Shaw MT, et al.*

*Life and death on the Amazon: illness and injury to travelers on a South American expedition.*

*J Travel Med. 2003; 10: 268-71.*

これは2カ月半におよぶ探検に同行した医師の記録に基づいた医学論文です。医師は、同行したクルーや遭遇した先住民に発症した病気や治療内容についてつぶさに記録していたそうです。探検に参加した26人のうち、24人が男性でした。

これらの参加者のうち、73.1%にあたる19人が何らかの“健康的問題”を起こしたそうです。私のようなヒョロヒョロの現代っ子がアマゾンのジャングルなんかに行ったら、まず間違いなくこの7割に入る自信があります。さて、この論文がいう“健康的問題”とはどのようなものでしょうか。

まず、1人は命を落としたそうです。……えっ！ 亡くなった人がいるの!？ そう、この研究では1人が探検中に命を落としているのです。アマゾンの川をヨットで移動していた際、なんとチームリーダーであるピーター・ブレイクが不慮の事故で亡くなったのです。

その事故を除くと、一般的なジャングルの健康的問題が見えてきます。まず、最も多い問題は耳鼻科的な症状でした。おそらく鼻炎・上気道炎症状が多かったものと思われます。その次に多かったのは、ケガでした。やはりアマゾン、おそるべし。虫や動物に噛まれるというケガが多かったようです。こういった軽い健康問題を統合すると、7割くらいは何らかの医学的なトラブルに見舞われるということ。この報告で恐ろしかったのは、「ちょっと診てくれないか」と診療

を希望した24人の先住民のうち4人がマラリアに感染していたことです。いやあ、日本では考えられませんね……。

この論文の終わりには、亡くなったチームリーダーのピーター・ブレイクに追悼の意を表するとともに、アマゾンを探検する際には必ず準備を怠らないようにという注意が書かれています。皆さんも、アマゾンのジャングルにお出かけする場合にはご注意ください！



## アマゾンの先住民は どのくらいヘビに噛まれている？

これは、ブラジルのアマゾンに住む先住民がどのくらいヘビに噛まれているか調べた研究です。それにしても、マニアックな研究ですね…。この論文でいうインディアンとは、ブラジルを含めたアメリカ大陸での先住民のことです。最近ではインディアンという用語の使用についていろいろ議論がありますよね。

*Pierini SV, et al.*

*High incidence of bites and stings by snakes and other animals among rubber tappers and Amazonian Indians of the Juruá Valley, Acre State, Brazil.*

*Toxicon. 1996; 34: 225-36.*

この論文によれば、ブラジルのアマゾンに住む先住民にとってヘビに咬まれて死亡する例は少なくなく、問題視されているとのこと。特にアクレ州という、ブラジルの最僻地に住む先住民にアンケートを実施してヘビ咬傷の頻度を調べたのがこの研究です。

その結果、全体の13%が「今までにヘビに咬まれたことがある」と答えまし

た。あれっ、意外に少ないのかな？ いや、多いのかな？ 何ともいえない結果ですね。何せ、日本ではヘビに噛まれた経験がある人をそうそう見ませんし。

アクレ州にはいろいろな部族がいるのですが、部族ごとにヘビに噛まれた経験がある頻度に差があったそうです。たとえばアシャニンカという部族は他の部族よりも頻度が少なかったそうです。民度、という用語がありますが、戦士がたくさんいるような猛々しい部族ではヘビ咬傷は多く、逆に自然学に関する教育水準が高い部族ではヘビ咬傷が少なかったとのこと。ヘビに咬まれた場所は、半数以上が足で、ジャングルを歩いている時に咬まれています。咬まれた人の90%は何らかの治療を受けていますが、ほとんどが根拠のない謎の民間療法でした。とはいえ、それでも咬まれた人の80%は全快しています。ヘビに毒があるかないかが分かれ目のようですね。

さて、死亡率はどうだったでしょうか。ヘビに限らず、アマゾンで遭遇する全生物に咬まれたことによって亡くなった人を集計しました。すると、アマゾンの先住民10万人あたり400人の死亡例があることが推察されました。これはどのくらいの頻度かといいますと、日本のがんの死亡率と同じくらいのイメージです（一概に比較できるものではないですが）。つまり、「あの人の旦那さんがんで亡くなったのよ」と同じくらいの頻度で「あの人の旦那さんヘビに咬まれて死んじゃったんですって」という事態が起こっているということを意味します。ブルッ……かなりの頻度ですね…

この論文の端っこには、「アリに咬まれて死んだ人もいる」と書かれています。おそるべし、アマゾンの奥地。



## ワニに噛まれた人の何割が重症？

読者の方で、ワニに噛まれた人はいらっしゃるでしょうか。ワンちゃんに噛まれたというのと、ワニちゃんに噛まれたというのではレベルが違います。実は私、子どものころ動物園に遠足に行った時、ワニの鼻を触ろうとしてあやうく噛みつかれそうになった経験があります。人生最速の反射神経で回避したため、事なきを得ましたが……。

Vanwersch K.

*Crocodile bite injury in southern Malawi.*

*Trop Doct. 1998; 28: 221-2.*

この論文はマラウイ南部にある病院を訪れたワニ外傷患者を調査したものです。マラウイってどこだっけ?とお思いのあなた。マラウイはアフリカ大陸の南東部に位置します。モザンビークやタンザニアの横にあります。……とりあえず、アフリカ大陸です。

このワニ外傷の研究には、4年の調査期間中にワニに噛まれた人が60人登録されました。単純計算でも、毎月1人以上は「ワニに噛まれたぞ!」と運び込まれる病院ということですね。

外傷の度合いは、軽症例はそこまで多くなく、多くの患者が何かしらの外科的処置を受けたそうです。デブリドマンといって、皮膚を切除する手術を受けた人もいました。感染症を併発することも多いため、抗菌薬の点滴も行われました。しかし、それでも1人は敗血症で亡くなったそうです。

解析の結果、ワニに噛まれた人のうち24人(40%)が永続的な後遺症を残す重症外傷であったことがわかりました。五体満足で元気に退院できたのは、半数余りということになります。ひえー、恐ろしや……。

皆さんもワニに遭遇したら、噛まれないように気をつけてください。ペットとして飼われている例も多いためか、アメリカでも各州でワニに気を付けるよう注意が促されています(Wilderness Environ Med. 2010; 21: 156-63)。

